

ダンスを始めたのは3歳のとき。保育園のお遊戯で楽しそうに踊っているのを見た母親が、ダンススクールに通わせてくれた。

小さい頃から負けず嫌いで、仕切り屋。中学時代には、学校の体育館を借りて本格的なダンスの発表会をした。初めての自主公演だ。高校で入ったダンス同好会は、ダンスを教えてくれる先生もおらず、練習もろくにしない。違う! と思って辞めようとしたとき、同級生が「続けてほしい。アカネの好きなようにして。私たちはついていく」と言ってくれた。先生に掛け合ってダンス部を立ち上げた。それが、「バプリーダンス」で有名になった登美丘高校ダンス部の始まりだ。

卒業後は、日本女子体育大学に進学。ダンサーになりたいという思いが強かったが、次第に振付師へと気持ちが変わった。理由の一つは、149cmという身長。小柄なゆえに、小さい頃から自分を大きく見せる踊りにこだわってきた。それは自分の強みだ。今も舞台上で、誰よりも目立つ自信がある。だけどダンサーとしては不利なのが現実だ。

母校で教え始めたことも大きい。帰省時にコーチを務めたことがきっかけで、コーチになった。ダンスを教えることはもちろん、振り付けも衣装も全部自分で考える。自分についてきてくれる生徒たちの必死の頑張りもあり、登美丘高校ダンス部は選手権2連覇を果たした。「バプリーダンス」がきっかけで、さまざまな人や仕事との出会いがあり、振付師としても鍛えられ、成長できた。振付や演出だけでなく、映像や音楽の編集も自分で手がけている。コンピュータは子供の頃から得意。編集作業に入ると、時間を忘れて夢中になってしまう。

大学の卒業公演のテーマは、岡本太郎さん。その型破りな作品や生き方に勇気づけられた。彼が関わった70年万博は、今の時代から見ても圧倒的だ。万博は、自分たちのパフォーマンスを世界に発信できる場でもある。自分が生きている間に、もう一度大阪万博が開かれたら、とても幸せだ。

東京での仕事が増えた今も、大阪は自分の拠点。これからも、多くの人を楽しませるダンス作品をつくりながら、大阪を盛り上げる活動に関わっていきたい。【躍】

ダンスで 大阪を元気に

akane (アカネキカク) 振付師



大阪万博をモチーフとした作品「日本万国博覧会」もプロデュース
(<https://www.youtube.com/watch?v=Cq7dVJkOirU>)

akane

(アカネキカク)

1992年大阪府岸和田市生まれ。大阪府立登美丘高校卒、日本女子体育大学舞踊学専攻卒。3歳からダンスを始め、登美丘高校にダンス部創設。大学1年時から母校のダンス部コーチとしてDANCE STADIUM 日本高校ダンス部選手権全国大会2連覇に導く。Mステや紅白歌合戦にも出場するほど大ブレイクしたバプリーダンスの生みの親。2018年ハリウッド映画『グレイテスト・ショーマン』のPR大使としてPV振り付けを担う、日本を代表する振付師。2025大阪万博誘致イベントにも積極的に参加。 <http://akanekikaku.com/>

季刊 [やく] June 2018 | No.35

C O N T E N T S

02 Person 人・明日をつくる

ダンスで大阪を元気に
akane

03 [鼎談] 基軸を探る

都市間競争と観光立国を考える

橋爪紳也／デービッド・アトキンソン／矢ヶ崎紀子

18 オピニオン

観光立国への視点

競争戦略

「観光客・事業者・地域住民のWin-Win-Winで、観光立国の実現を」 高橋一夫

万博誘致

「世界から尊敬される大阪へ、若者が価値観を変えていく」 寺本将行

地域と企業

「“インフラを持つ強み”で地域を支える」 瀧口信一郎

25 旬発NIPPON

地域住民が観光客の足になるマイカー運送事業

——モビリティ革命、養父の挑戦

29 かんてんFOCUS

地域社会と共に考え、

共に未来を創る

森 望

34 現場力ノ最前線

京都とともに、127年の水脈